

新修島根県史 全10巻 島根県編 昭和40年～43年刊

新修島根県史 通史篇1 考古・古代・中世・近世 目次		ページ
第1部	原始	
	第1章 縄文式文化	
	第1節 縄文式文化の性格	2
	第2節 県下の縄文式遺跡	5
	第3節 県下縄文式土器の変遷	12
	1 早期末・前期の土器	12
	2 中期の土器	15
	3 後期・晩期の土器	16
	第4節 遺跡の分布と生業	18
	第5節 隠岐島の文化	22
	第6節 他地方との交渉	23
第2部	古代	
	第1章 弥生式文化	
	第1節 弥生式文化の性格	26
	第2節 県下の弥生式遺跡	28
	第3節 県下の弥生式遺物	39
	1 青銅器	39
	2 石器	47
	3 木器	48
	4 装身具	49
	5 分銅形土製品	50
	第4節 県下弥生式土器の変遷	50
	1 前期の土器	51
	2 中期の土器	52
	3 後期の土器	53
	第5節 遺跡の分布と集落の発達	54
	第6節 古代国家形成途上の西部山陰の様相	58
	第2章 古墳文化	
	第1節 古墳文化の性格	64
	第2節 県下の古墳	67
	1 大型の古墳	68
	2 墳丘の形式	70
	3 内部構造の形式	73
	4 代表的古墳の各説	85
	第3節 県下の古墳時代遺跡	110
	1 住居跡	110
	2 須恵器の窯跡	111
	3 玉作跡	112
	4 祭祀遺跡	113
	第4節 古代国家発展期の県下の様相	114
	第3章 氏姓制度の時代	124
	第1節 神話・古伝	124
	第2節 氏姓制度と中央権力の浸透	145
	1 国造	148
	2 出雲の建部	152
	3 出雲国内の氏族構成	155
	4 石見の氏族	168
	5 隠岐の氏族	170
	第4章 律令制度の時代	173
	第1節 律令制の性格	173
	第2節 地方政治の機構	175
	1 国と国司	175
	2 国府	187
	3 郡と郷里	190
	4 条里制	196
	5 駅と交通	199

	6 地方の軍備	202
	第3節 産業	207
	1 農産	207
	2 生糸・織物及び紙	216
	3 畜産	217
	4 水産と水産加工品	218
	5 鉄と銅	220
	6 窯業	221
	7 玉類	223
	第4節 出雲の国造	224
	第5節 神社	232
	第6節 仏教	240
	1 寺院跡	241
	2 国分寺	248
	3 初期の仏像	255
	4 火葬の風	256
	第7節 学問と文学	260
	第8節 祥瑞と表彰	268
	第9節 渤海国使の来着	271
	第10節 新羅に関する緊張	274
	第11節 隠岐配流	278
	第12節 律令制下の地方民	280
	第5章 律令制度の衰退	291
	第1節 時勢推移のさざし	291
	第2節 地方官制の変貌	301
	第3節 公地公民制の崩壊	308
	第4節 豪族の様相	321
	第5節 文化の様相	333
	1 神社	333
	2 仏教	341
第3部	中世	
	第1章 鎌倉時代	
	第1節 武家政権の成立	351
	第2節 承久の乱	358
	第3節 元寇	361
	第4節 荘園の様相	363
	第5節 鎌倉期の土豪層	371
	第6節 鎌倉末期の動向	404
	第2章 南北朝時代	
	第1節 建武の新政	408
	第2節 内乱の初期	410
	第3節 観応の擾乱	413
	第4節 明德の乱	421
	第5節 擾乱の中の土豪達	424
	第3章 室町幕府と守護大名	
	第1節 応永の乱	433
	第2節 大内氏の守護領国制	435
	第3節 京極氏の守護領国制	439
	第4章 応仁の乱と戦国の争乱	
	第1節 応永の乱後の石見土豪	444
	第2節 応仁の乱	447
	第3節 尼子清定の活躍	454
	第4節 戦国大名の出現	458
	第5節 尼子氏の盛衰	464
	第6節 富田落城	472
	第5章 中世の経済と文化	
	第1節 経済発展の動向	479
	1 産業の発達—筵と鉄と銀—	479
	2 大森銀山の開発	481

	3 海産物その他	482
	第2節 商業の発達	482
	第3節 宗教の発展	489
	1 旧仏教と神社	489
	2 鎌倉仏教の発展	491
	3 地方文化の発展	508
第4部	近世	
	序章 毛利氏の支配	516
	1 封建支配と土地政策の展開	516
	2 天正一文禄期以前の土地政策	517
	3 天正一文禄期の土地政策	518
	4 慶長期の土地政策	524
	第1章 諸藩の成立	
	第1節 諸藩の成立事情	526
	1 松江藩とその支藩	526
	2 浜田藩	544
	3 津和野藩	550
	4 石見銀山御料	558
	第2節 築城と城下町の建設	565
	1 松江築城と城下町	565
	2 浜田築城と城下町	579
	3 津和野築城と城下町	588
	第2章 藩政の確立	
	第1節 幕藩体制と藩制の確立	595
	第2節 家臣団の編成	598
	1 家臣団の形成	598
	2 家臣団の構造	606
	3 職制と知行制度	611
	第3節 地方行政の制度	619
	1 松江藩と隠岐	619
	2 浜田藩と津和野藩	626
	3 石見の天領	634
	第4節 検地と租税制度	644
	1 検地	644
	2 租税制度	656
	第3章 藩政の展開	
	第1節 行政と財政	684
	1 施政の方針と行政機関	684
	2 家臣団の統制	688
	3 領民支配政策	690
	4 藩財政の窮迫	700
	第2節 土木事業	712
	1 新田開発	712
	2 用排水工事	729
	第3節 産業と経済	733
	1 農業生産の発展	733
	2 林業と漁業	744
	3 鉱業	752
	4 商業	760
	第4節 交通と運輸	769
	1 陸上交通	769
	2 河川交通	775
	3 海上交通	778
	第5節 社会と生活	791
	1 階層構成とその分化	791
	2 農村生活の様相	798
	3 災害とその対策	806
	第6節 教育と文化	812
	1 学校の設立と教育	812

	2 学問と美術工芸	819
第4章	藩政の動揺と解体	
	第1節 商品生産の発展	836
	1 商品生産の発展とその特質	836
	2 木綿の生産と流通	838
	3 人参・蠟・紙の生産と藩専売制	847
	第2節 藩政改革	856
	1 松江藩の改革	857
	2 浜田・津和野藩の改革	869
	第3節 百姓一揆	878
	1 農村構造の変質	878
	2 出雲・石見の百姓一揆	888
	第4節 幕末から維新へ	898
	1 幕末の情勢	898
	2 長州戦争と石見	916
新修島根県史 通史篇2 近代 目次		ページ
第1章	明治維新と島根県	
	第1節 維新の変革と島根の情勢	
	1 長州軍政下の石見地方	
	(1) 変革の開幕	1
	(2) 浜田落城	4
	(3) 銀山領の長州支配	8
	(4) 休戦	10
	2 山陰道鎮撫使と松江藩	
	(1) 山陰道鎮撫総監の派遣	12
	(2) 鎮撫使の来松	13
	3 隠岐騒動	
	(1) 尊王攘夷論の形成	15
	(2) 正義党の蜂起	18
	(3) 自治機関の成立	21
	(4) 廃仏毀釈	26
	4 版籍奉還と藩政改革	
	(1) 版籍奉還と松江藩	30
	(2) 母里藩の帰農政策	31
	(3) 津和野藩の版籍奉還	35
	(4) 大森県から浜田県へ	36
	第2節 廃藩置県	
	1 廃藩置県と県内状況	
	(1) 島根県の成立	40
	(2) 浜田県の設置	42
	(3) 山陰五州の島根県	43
	2 地方官制度と地方民会	
	(1) 県庁機構と県職員	44
	(2) 島根県集議所から島根県会へ	48
	(3) 浜田県民会の設立	54
	3 戸籍と大区小区制度	
	(1) 壬申戸籍	58
	(2) 大区小区制度と区戸長	62
	第3節 資本主義経済の育成	
	1 土地制度の変革	
	(1) 地券交付の意義	65
	(2) 貢米と府県の為替方	67
	(3) 地租改正の実施	72
	(4) 減租運動の展開	77
	2 秩禄処分と徴兵令	
	(1) 秩禄処分の実施	81
	(2) 徴兵令の公布	86
	3 殖産興業の展開	

	(1)藩営専売の解体と民営移管	94
	(2)士族授産事業の展開	98
	(3)民間産業の勃興	103
	(4)農業の近代化	124
	4 三大道路の建設	
	(1)道路と交通	151
	(2)三大道路の建設	158
	5 窮迫の農村	
	(1)農村不況と貧民救助	172
	(2)農業の新しい展開	187
	(3)農民分解と地主制	207
	第4節 地方三新法と自由民権運動	
	1 行政機構の整備	
	(1)県政機構と鳥取県再置	220
	(2)県会の設立	227
	(3)郡と町村の統廃合	238
	2 島根の自由民権運動	
	(1)国会開設運動の展開	247
	(2)政党政社の勃興	255
	(3)条約改正と県民	264
	第5節 明治前期の教育と文化	
	1 寺子屋から学校教育へ	
	(1)小学校の開設	271
	(2)中等教育の開始	289
	2 文明開化と県民生活	
	(1)新聞の創刊と発展	296
	(2)文明開化と県民生活	303
	第2章 近代社会の成立	
	第1節 地方行政制度の確立	
	1 市町村制と市町村行財政	
	(1)市制町村制の施行	309
	(2)町村の行財政	323
	(3)町村制の改正と町村財政の窮乏	340
	2 郡制と郡行政	
	(1)郡の廃合	348
	(2)郡制と郡行政	352
	3 府県制と県政の推移	
	(1)府県制と県庁機構	366
	(2)県政と政党政治	384
	第2節 資本主義経済体制の確立	
	1 三つの勸業十年計画	
	(1)明治二十八年の殖産十年計画	414
	(2)明治四十二年の殖産十年計画	422
	(3)大正七年の産業計画	433
	2 米と繭	
	(1)農作物の推移	446
	(2)水稻耕作農法の確立	462
	(3)養蚕業の発展	489
	3 牧畑の衰退と土地改良の展開	
	(1)牧畑の水田化	504
	(2)耕地整理事業の展開	511
	4 農会と産業組合	
	(1)農会の設立と発展	524
	(2)産業組合の設立と発展	537
	5 地主制と小作慣行	
	(1)地主的土地所有の前進	548
	(2)地主経営と地主会	560
	(3)小作慣行の推移	574
	6 畜産の発展	

	(1)牛馬の改良	582
	(2)馬匹と養鶏	605
	7 林業と木炭	
	(1)林業の発展	614
	(2)木炭の改良	623
	(3)林産物の栽培	629
	8 水産業の発展	
	(1)水産業の近代化	630
	(2)遠洋漁業の発展	644
	9 工鉱業の近代化	
	(1)発展する製糸業	653
	(2)工業の近代化	671
	(3)激動する工業界	686
	(4)鉱業の発展	693
	10 商業と貿易	
	(1)商業の近代化	699
	(2)電気会社の発展	716
	(3)金融機関の設立と合併	720
	(4)対岸貿易の発展	729
	11 交通機関の整備拡充	
	(1)定期航路の整備	743
	(2)鉄道の西進	752
	(3)道路の整備と自動車交通	759
	第3節 教育と民生の発展	
	1 教育の普及	
	(1)学校教育の発展	764
	(2)中等教育の普及	783
	(3)高等教育を県内で	794
	(4)社会教育の発展	797
	2 県民生活の近代化	
	(1)衣食住の近代化	814
	(2)社会事業の発展	821
	(3)医療施設の拡充	824
	第3章 近代社会の発展	
	第1節 社会矛盾と社会問題	
	(1)米騒動	827
	(2)農民運動の展開	833
	(3)労働運動と無産政治運動	839
	第2節 経済発展と経済恐慌	
	(1)産業計画と経済更生計画	845
	(2)昭和の工業発展	851
	(3)商業活動の発展	862
	(4)農業恐慌から戦争農業へ	876
	(5)交通網の整備と観光	891
	第3節 地方行財政	
	(1)県行財政の推移	901
	(2)市町村行財政の推移	916
	新修島根県史 通史篇3 現代 目次	ページ
	第1章 旧制度の解体と新憲法の施行	
	第1節 終戦と占領軍の進駐	
	1 終戦	1
	2 占領軍の島根県管理体制	9
	第2節 終戦直後の諸問題	
	1 食糧問題	15
	2 住宅問題	21
	3 災害復興とすさんだ世相	25
	4 教育問題	28
	第3節 民主化運動の抬頭	

	1 公民権指令	32
	2 婦人の解放	33
	3 労働者の団結権	35
	4 教育の自由主義化	38
	5 専制政治からの解放	41
	6 経済の民主化	43
	第4節 新憲法の制定と地方自治法	
	1 新憲法の制定公布	44
	2 地方自治法の公布	51
第2章	地方自治の展開	
	第1節 新県政の出発	
	1 地方自治の本旨	54
	2 知事の公選	56
	3 新県議会の構成	60
	4 天皇の行幸	64
	5 県政首脳の交替	69
	6 県庁舎の建築	75
	第2節 行財政制度の改革	
	1 県行政機構の改革と推移	78
	2 県財政・税制の推移	83
	3 警察制度の改革	95
	第3節 町村自治と新市町村建設運動	
	1 市町村行政と町村合併問題	103
	2 市町村の財政	115
	第4節 選挙と県民の政治意識	
	1 終戦直後の選挙	124
	2 公職選挙法以後の選挙	133
	3 公明選挙運動と県民の政治意識	146
第3章	経済の民主化と産業の振興	
	第1節 農地改革とその成果	
	1 農地改革関係法の成立	153
	2 農地改革の進展	157
	3 農地改革の成果とその影響	168
	4 開拓事業	171
	第2節 戦後農政の展開と農業の近代化	
	1 戦後農政の推移	174
	2 農業協同組合の成立と発展	177
	3 農業基盤整備事業	189
	4 農業改良事業の進展	193
	5 農業基本法の制定と農業構造改善	196
	6 離農、離村とその対策	203
	第3節 漁業制度の改革と李ライン問題	
	1 漁業制度の改革と漁協の成立	206
	2 沿岸漁業の振興	214
	3 水産資源の開発と漁業補償	222
	4 李ラインと竹島問題	225
	第4節 商工業政策の進展	
	1 工業の実態と工場誘致政策	233
	2 電源開発と鉱山の開発	242
	3 商業の発展と市場の開拓	248
	4 中小企業の育成と商工会議所	256
	5 交通運輸機関の整備	261
	6 観光事業の発展	269
	第5節 土木行政の展開	
	1 治山・治水事業の進展	273
	2 道路・港湾の整備	278
	3 建築行政と住宅団地	289
	4 都市計画	292
第4章	社会問題と社会保障	

	第1節 労働組合運動の発展と社会政策	
	1 労働状況と労働組合の発展	295
	2 労働行政の展開	298
	3 労働争議と地方労働委員会	301
	4 職業安定対策	311
	5 社会保険事業	317
	第2節 社会福祉事業の進展	
	1 生活保護事業	325
	2 児童福祉事業	329
	3 身体障害者福祉事業	333
	4 社会福祉事務所と社会福祉協議会	334
	5 復員業務と引揚援護事業	335
	第3節 医療と公衆衛生の発展	
	1 疾病と医療制度の整備	339
	2 公衆衛生の普及	347
第5章	新教育と文化の普及	
	第1節 六・三制の発足	
	1 新教育への胎動	359
	2 六・三制義務教育の実施	363
	3 教育研究所の設置	369
	第2節 教育委員会制度の変遷	
	1 教育委員会の発足	372
	2 教育防衛闘争とレッドパージ	380
	3 市町村教育委員会の設置	388
	4 教育委員会制度の改革	390
	第3節 後期中等教育の再編成	
	1 新制高等学校の発足	398
	2 新制高校の統合と分離	399
	3 ベビーブームと高校生急増対策	403
	4 特殊教育の進展	405
	5 私学の設立と振興	406
	第4節 新制大学の誕生	
	1 国立島根大学の開設	406
	2 県立農科大学および専門学校の設置	410
	第5節 社会教育及び保健体育の振興	
	1 社会教育の理念	412
	2 社会教育体制の整備	412
	3 婦人会と青年団	416
	4 文化財の保護	419
	5 保健体育の振興	420
	第6節 新しい文化の普及	
	1 新生活運動と迷信解消運動	423
	2 マスコミの普及	424
	3 農村生活の近代化	427
第6章	総合開発と将来への展望	
	第1節 国土総合開発法と本県の総合開発	
	1 国土総合開発法の公布	431
	2 島根県の総合開発	433
	3 特定地域総合開発の構想	436
	第2節 出雲地域の総合開発	
	1 大山・出雲特定地域の総合開発	437
	2 斐伊川・宍道湖・中海総合開発計画	443
	3 中海臨海地区開発計画	449
	第3節 石見地域の総合開発	
	1 江川流域の開発と水資源調査	452
	2 石見臨海地帯の総合開発	454
	3 三瓶地域の総合開発	456
	第4節 隠岐島の総合開発	
	1 離島振興法の制定	457

	2 隠岐島の総合開発	459
第5節	中国地方開発促進法と本県の総合開発	
	1 中国地方の開発と中国縦貫自動車道	461
	2 新産都市と地方開発都市	467
第6節	農業関係特殊立法による総合開発	
	1 農業振興特殊法の制定	468
	2 積雪寒冷単作地帯農業振興計画	469
	3 急傾斜地帯農業振興計画	470
	4 特殊土壌地帯農業振興並びに災害防除計画	471
	5 湿田単作地域農業改良計画	473
	6 海岸砂地地帯農業振興計画	473
	7 畑地農業振興計画	474
第7節	島根県総合振興計画	
	1 島根県総合振興計画樹立の必要性	476
	2 総合振興計画の内容	478
	3 島根県の将来	481
新修島根県史 史料篇1 古代・中世 目次		ページ
古代		
	1 六国史抄録	1
	日本書紀	1
	続日本紀	4
	日本後紀	16
	続日本後紀	18
	日本文徳天皇実録	21
	日本三代実録	23
	2 諸史料抄録	35
	類聚国史	35
	本朝世紀	38
	扶桑略記	41
	百鍊抄	44
	類聚三代格	45
	類聚符宣抄	50
	続左丞抄	51
	別聚符宣抄	53
	政事要略	54
	朝野群載	67
	延喜式	71
	3 出雲国風土記	95
	4 正倉院文書	120
	隠伎国正税帳	120
	出雲国計会帳	123
	出雲国大税賑給歴名帳	131
	優婆塞貢進解	147
	5 主税寮出雲国正税返却帳	148
	6 諸家文書	164
	石清水文書	164
	千家文書	168
	久利文書	171
	益田家什書	173
	神祇官諸社年貢注文	174
	八条院領目録	180
	源頼朝下文案	181
	成勝寺年中相折帳	182
中世		
	出雲	
	1 出雲大社文書	185
	2 千家文書	193
	3 北島文書	252

4	日御碕神社文書	275
5	小野文書	314
6	鰐淵寺文書	332
7	青木文書	374
8	迎接寺文書	377
9	揖夜神社文書	385
10	岩屋寺文書	387
11	秋上文書	402
12	雲樹寺文書	414
13	安国寺文書	420
14	内神社文書	424
15	中沢文書	426
16	成相寺文書	426
17	春日文書	432
18	朝山文書	436
19	波根文書	441
20	総光寺文書	443
21	大林寺文書	445
22	法王寺文書	447
23	多久和文書	447
24	竹矢文書	447
25	晋叟寺文書	451
26	覚融寺文書	454
27	秦文書	456
28	清水寺文書	458
29	諏訪文書	461
30	佐太神社文書	462
31	陶山文書	464
32	木佐文書	464
33	中林文書	465
34	田部文書	465
35	永田文書	466
36	蒲生文書	467
37	坪内文書	469
38	清安寺文書	470
39	晴木文書	471
40	須佐文書	472
41	米村文書	472
42	松阿弥文書	473
43	真名井神社文書	473
44	稲田文書	474
45	土屋文書	474
46	城安寺文書	474
47	山名文書	474
48	新石文書	475
49	山本文書	476
50	蔭涼寺文書	476
	石見	
51	武明八幡宮文書	477
52	莊巖寺文書	481
53	飯田文書	484
54	内田文書	485
55	庵原文書	485
56	万福寺文書	490
57	妙義寺文書	490
58	大宮文書	493
59	平田文書	495
60	全長寺文書	497
61	中島文書	498

62	原屋文書	499
63	草野文書	501
64	清水文書	503
65	林文書	505
66	物部神社文書	508
67	金子文書	509
68	白石文書	510
69	笠井文書	511
70	米原文書	512
71	竹下文書	513
72	本城文書	514
73	藤間文書	515
74	森木文書	515
75	西楽寺文書	516
76	竹内文書	517
77	森文書	517
78	多胡文書	518
79	多田文書	520
80	橋本文書	520
81	岡本文書	521
82	鷺原八幡宮文書	522
	隠岐	
83	笠置文書	523
84	村上文書	527
85	村尾文書	528
86	焼火神社文書	529
	県外	
87	経久寺文書	531
88	鴻池文書	531
89	萩藩閥閥録	533
	史料要目(中世編)	565
	史料編年目録(中世編)	575
	索引(中世編)	641
	新修島根県史 史料篇2 近世上 目次	ページ
	出雲・隠岐	
1	堀尾古記(天正12～正保元)	1
2	堀尾家記録(元亀元～寛永10)	11
3	毛利様御代検地帳(天正19)	22
4	禅定寺領打渡坪付(文禄4)	61
5	隠州別府検地帳(慶長4)	68
6	堀尾忠晴給帳(寛永)	84
7	京極忠高給帳(寛永)	98
8	松平直政給帳(寛永15～明暦元)	114
9	広瀬藩給帳(延宝2改)	125
10	雲陽大数録(宝暦)	130
11	増補隠州記(貞享5)	169
12	隠岐御役人御更代覚(慶長4～天保6)	262
13	隠岐諸色年代略記(宝暦11)	315
14	御触書留(文政12)	327
15	義田定法書(延享4)	346
16	郡奉行江演説覚(延享4)	347
17	御要用銀一卷(延享5)	349
18	泉府方御書出(寛延2)	351
19	銭泉府仕法帳(宝暦元～12)	352
20	御勝手方御書出并調達割府承知判形帳(宝暦12)	357
21	五万俵割中面以上之人別留(明和5～元治2)	363
22	出入捷覧(明和4～天保13)	376
23	周吉郡中直段書上他(天明5)	451

24	仁多郡諸色直段書出帳(寛政3)	455
25	郷町諸色直段下り定帳(天保13)	462
26	隠岐四郡御物成覚(享保5)	469
27	母里藩租税方法記	470
28	農政割記(貞享4~寛延元)	475
29	雲陽郷方古今覚書(慶長元~安永元)	498
30	地方準繩	511
31	出雲十郡殿合伺書(天明7)	528
32	仁多郡方殿合主法受書(文化12)	532
33	仁多郡村割殿合主法受書(文化12)	543
34	仁多郡人別殿合主法受書(文化12)	551
35	越智郡津戸村五人組御仕置帳(文化8)	554
36	周吉郡釜村差出帳(正徳3~宝暦6~文政6)	561
37	大庄屋被下物并勤方覚(天保6)	569
38	美保関港制札写(寛文12~天和3)	570
39	他国出禁止并入来差免品目(元禄8)	572
40	拔荷・拔商触書(正徳~享保)	573
41	隠州島後船手諸法度極書(文化4)	575
42	鉄方御条目(宝暦11)	577
43	鉄山旧記(正徳~嘉永)	584
44	享保御賞鉄一途(享保7)	613
45	楯縫郡大川末新田開発願(寛文13~宝暦4力)	629
46	楯縫郡大川末新田願(享保19)	635
47	赤塚市場尻植松場証文(享保17)	637
48	卜蔵新田開発記録(享保6~文化)	638
49	年中農業行事記(寛政5)	653
50	神門出雲楯縫郡反新田出精仕様書(文政3)	666
51	仁多郡湯村槻屋村紙漉御法承知判形帳(宝暦9)	686
52	宍道駅諸市願(天明3)	690
53	加茂木綿市愁訴一途(文化4)	691
54	宍道木綿市願(文化5~天保12)	696
55	加茂牛馬市関係願(文政2)	700
56	宍道駅馬関係愁訴演説書(文政3)	705
57	長崎御用俵物請書(天明5)	710
58	隠州俵物新規稼并増方等取極請書(享和元)	713
59	隠州干鮑水練入漁新規取極請書(享和元)	719
60	俵物之間屋船宿請書(享和元)	721
61	平戸白浜浦青崎宇八隠岐出稼干鮑引請書(享和3)	724
62	木原甚三郎渡海取極書付(享和3)	726
63	俵物御用一途留(文化4)	731
64	俵物村々割付改帳(文化4・6年~文政7改)	749
65	島中無種大飢饉之救合并褒美留(享保17)	752
66	隠州島前飢扶持拝借村別寄目録(享保18)	760
67	天明凶作一途(天明3)	762
68	雲国民乱治政記(天明3)	774
69	天保大凶作日記(天保7~8)	795
70	御救麦正銀村々割賦帳(天保8)	804
	新修島根県史 史料篇3 近世下 目次	ページ
	天領	
1	銀山要集・銀山旧記	1
2	銀山方取計	67
3	地方役所申渡書(文政12)	68
4	御条目(天明8)	73
5	御触書請印帳(文化11・14・文政2)	76
6	代官廻村之節取締仰渡請印帳(天保3)	85
7	異国船渡来之節取締触書請印帳(嘉永7)	87
8	石州銀山諸運上並地方中御勘定目録(延宝5)	92
9	石州黒松分御検地帳(慶長7)	97

10	都治本郷御成箇割付(享保15・16・17)	112
11	御年貢并諸入用取立勘定目録(宝暦10)	115
12	御廻米納方仕法書(寛政3)	121
13	御廻米納方申合儀定書(文化8)	125
14	大阪御廻米諸入用請割帳(文政8)	127
15	石見国高郷村帳(宝永元)	130
16	安濃郡吉永村上組五人組改帳(享保13)	145
17	料内村々役人一同歎願書附(天保10)	150
18	邇摩郡温泉津村申合議定書(嘉永7)	153
19	土居原鉦山内申渡書(寛政2)	160
20	銑鉄下直二付鉦師一統立会申談ル一件(文化2)	164
21	長良鉦定書(文化5)	168
22	銑売捌方仕法書(文化8)	173
23	温泉津湊問屋中定書(文化2)	175
24	大浦湊魚問屋定書(文政2)	177
25	廻船取締方議定請書(嘉永5)	182
26	諸色覚書(安永7～文化4)	185
27	天明三年大田在町騒動記(天明3)	233
28	一揆之節寸志遣候覚帳(慶応2)	248
29	吉永記	256
浜田藩		
1	浜田御城地目録(元和5～天保10)	271
2	石浜武鑑(延享4)	280
3	浜田藩中御名録(安政2)	303
4	松平康映入部掟書(慶安3)	308
5	御制禁御触書(元禄9・12)	310
6	浦方御条目(宝暦9)	316
7	儉約御触書(嘉永4)	320
8	石懸り一件日記(嘉永4)	324
9	朝鮮竹島渡航始末記(享保7～8)	328
10	侵入防長軍対浜田藩贈答書面写(慶応2)	336
11	小石見検地帳(天正11)	339
12	矢上村社領・西光寺領坪付(慶長6)	374
13	定免状之事(享保15・16・17)	375
14	村方諸物入等定法請書(宝暦10)	377
15	五人組御条目帳(天保9)	379
16	浦方諸事書上帳(慶応2)	391
17	鉦山買請羽書(文化5)	397
18	鉄穴定書之事(文政6)	399
19	添谷鉦一件取囃書(嘉永元)	401
20	鉄売立惣平書抜帳(安政4)	406
21	木地議定書(文化5)	411
22	阿須那牛馬市関係文書(明暦2～元治元)	412
23	浦運上物覚(慶安3)	420
24	浦役船持共江被下定書(延宝5)	421
25	網役定書付(貞享5)	422
26	魚荷出役覚(元禄9)	423
27	浦役勤向覚(元禄13)	424
28	七浦諸色見合(享保9～天明6)	425
29	諸荷物運賃定書(享保11・14)	432
30	運上壺割増覚(天保6)	435
31	長浜浦直売買物定(安永6)	437
32	出羽駅古法書付(寛政3)	438
33	諸物価値下届覚(文政3)	440
34	浜田城下諸色申伝・諸職人商売人等控(宝暦～明和)	442
35	享保飢饉餓死病死帳(享保17～18)	455
36	極難人米割賦帳(天明4)	462
津和野藩		
1	亀井家代々略記(天正～文政)	466

2	津和野御打入之節諸士(元和3)	477
3	亀井茲政代知行切米帳(寛文2)	480
4	諸士知行附(享保18)	490
5	津和野町方諸雑書	494
6	丁丑・庚子並宝暦十年御条目(寛永14・万治3・宝暦10)	497
7	山林竹木御書出(正徳3)	502
8	米札通用御条目(享保16)	505
9	御条目・御法度書(文化7)	508
10	御達書(文政10)	511
11	御条目御改之廉々(天保13)	516
12	御直書・御達書・郡代書状並書上(嘉永7)	523
13	在中御条目(文久元)	527
14	在中御法度筋御示書(文久元)	529
15	在中御条目御法度之内御改書(文久2)	535
16	御直書(文久3)	537
17	御転法覚書(慶応3)	539
18	御勘定帳一卷大意紙一卷大意(寛永～嘉永)	541
19	御仕組二付口上書(文化4)	564
20	無尽頼母子御取立書類(文政13)	566
21	高津土蔵現質取入議定(天保15)	570
22	御勝手向江出金銀覚(天保5～安政4)	572
23	波佐両村惣百姓請書(寛保3)	578
24	庄屋仲間儀定書(宝暦9)	585
25	庄屋役勤方心得口演書(文化2)	590
26	郡中諸向取計覚(文化12)	593
27	津和野藩紙漉覚書(寛永～文政)	613
28	楮苗作り方之事(卯正月)	649
29	栢苗作り立主方書(天保13)	650
30	出誠講旨趣(嘉永2)	652
31	樋口村騒動一件覚書(文化2)	657
32	有田村百姓騒動並河内百姓歎出書類(天保2)	665
新修島根県史 史料篇4 近代上 目次		ページ
1	山口藩石州支配	1
	「石州本陣沙汰控」	1
	「豊石万控」	10
	「石見国大森宰判本控」	15
	「御用帳」	18
2	山陰道鎮撫使事件	25
	「太政官公文録」	25
	「山陰道鎮撫使記録」	27
	「山陰道鎮撫始末書」	28
	「西園寺公山陰道鎮撫総督事情」	37
	「太政官日誌」	37
	「鎮撫使西園寺公望様御本営へ家老大橋筑後呼出一件書面」	38
3	隠岐騒動	40
	「太政官公文録」	40
	「維新史資料」	53
	「明治元年御用日記」	54
4	版籍奉還 三治制	55
	藩主上表写 御沙汰書写 知藩事被仰付順次 「明治二年法令全書」近隣藩藩知事表(草高現石家禄)	58
	松平右近将監へ御達書写	59
	御達書(隠岐県、大森県)	60
	「布達抜書」(浜田県)	61
	「浜田県例規」	62
5	職制改正	65
	出雲藩治職制	65
	松江藩治職制	77

	広瀬藩治職制	82
	母里藩治職制	85
	津和野藩職員令	90
6	藩制改革	93
	松江藩	93
	広瀬藩	97
	母里藩	99
	津和野藩	102
7	廃藩置県	105
	津和野藩知事上表写 御沙汰書写 津和野藩支配地浜田県管轄仰付 廃藩置県詔書写布告写	105
8	県の分合 区域 人口	107
	山陽山陰両道之内県之廃置	107
	隠岐国ヲ鳥取県ニ併合 浜田県ヲ島根県へ合併	108
	鳥取県ヲ島根県へ合併	110
	鳥取県再置	110
	「浜田県事務引渡書」	111
	「県治要領」(参議山県有朋来県)	130
	「建白」(鳥取県再置に対する賛否)	132
	「山陰新聞」記事	140
	「鳥取新聞」記事	143
	石見国管轄換ノ件建白書	145
	訓令竹島所属	154
	「大正六年庶務雑款」(鳥取県再合併問題)	155
	人口戸数	166
9	府県制施行	168
	「令訓」「島根県告示」府県郡制ノ公布ヲ請ヒ併テ其急施ヲ仰クノ建白書 島庁ヲ置ク島地指定	168
10	歴代長官の略歴 事績	171
11	県行政組織	208
	大森県	208
	浜田県	208
	島根県	209
12	旧県職員録	225
	「明治辛未県職員名簿」(松江県)	225
	「浜田県職員録」	228
13	事務処理	235
	A島根県	235
	B浜田県	246
	C島根県	258
14	税則	284
	A島根県 民費遣払廉条目 取扱規則	284
	職工商業者新規課税	285
	田方検見手続書	286
	民費取調箇条	291
	山札米等廢税	293
	県税額制定	296
	B浜田県 御物成収納	300
	御立山箇所並田別改	302
	庁舎等新當入費民費割上納	307
	区費定則	309
	租税収納規則	315
	民費定則	324
	C島根県 民費点検条例	328
	地価割戸数割	336
	営業税雜種税	338
	漁業税採藻税	343
	地方税各郡別収入額	360
	県税遊興税	381

	県税賦課規則	383
	特別地稅附加稅	403
	県税賦課徴収条例	404
	臨時県税増徴条例	414
15	地方税規則制定以前の県歳入歳出	415
16	地方税規則制定後の県歳入歳出予算決算	469
17	県債	578
18	自由民権運動	581
	石陽自由党	581
	山陰自由党	588
	石見立憲改進黨	593
	石見立憲自由党	598
	山陰新聞論說	602
	小原鉄臣二言渡セル裁判書	607
	建白	607
19	選挙	611
	県會議員初度撰挙	611
	選挙肅正	613
	議員定数及選挙有権者数	630
20	警察	631
	島根県 捕亡仮規則	634
	違式誣違条例	638
	浜田県 巡廻役奉職規則	641
	捕亡規則	642
	邏卒職務仮規則	646
	島根県 行政司法警察規則	648
	違式罪目	657
	違警罪目	659
	警察犯処罰令	661
	警察区画	664
21	司法刑獄	670
	島根県 白洲番事務取扱方	672
	囚獄取締章程	673
	聴訟課事務取扱方	677
	浜田県 鞠獄規則	680
	徒刑場規則	681
	囚獄規則	685
	島根県 府県裁判所廃止松江裁判所設置	695
22	島政	696
	島庁設置	696
	町村制ヲ施行セサル島嶼指定	697
	町村合併	697
	戸長役場位置	698
	町村制適用	699
	島庁ヲ置ク島地指定	700
	島司委任条件	701
	支庁長委任事項	705
	島治状況	705
23	旧郡と大小区	727
	「島根県」「浜田県」「島根県」	727
24	郡制施行経過	742
	新修島根県史 史料篇5 近代中 目次	ページ
25	明治初期の町村	1
	島根県歴史政治部	1
	「島根県町村名」	2
	十九年甲号布達	26
26	戸長制	27
	島根県布告布達	27

	町村会規則	48
	戸長職務概目	54
	戸長選挙規則	55
	町村会規則	57
	戸長役場所轄区域役場位置	60
	戸長年俸其他給与方則	75
	司法警察事務取扱手続	79
	山陰新聞論説	80
27	市制町村制	82
	令訓	85
	町村分合改称	90
	市役所町村役場位置	100
	浜田市設置答申ノ件	105
	簸川郡今市町外合併関係一途	109
28	行財政一斑	110
	市長町村長委任事項	110
	町村吏員	113
	自治講習所規定	116
	市町村吏員報酬給料額町村税調	116
	市郡別歳入決算	124
	市郡別歳出決算	145
29	財政整理文書	166
30	島根県町村長会決議録	200
31	地租改正	250
	島根県歴史制度部	250
	明治七年石見国郡村民有耕宅地段別地価地租一郡限表	280
32	明治九年浜田県事務引渡書(勸業)	284
33	産紙事務	296
34	島根県勸業年報	313
	「島根県勸業年報第一回」	313
	「島根県勸業年報第二回」	373
35	島根県勸業月報	443
36	第一回興業意見	450
37	「島根県公報」紀事農工商	469
38	内務部第五課農商係事務引渡演説書	529
39	第一次島根県殖産十年計画	535
	県知事諮問ニ対スル殖産興業ニ関スル意見書	535
40	島根県産牛馬沿革誌	569
41	第五回内国勸業博覧会島根県受賞者人名録	601
42	小作慣例調査書	603
43	管内大地主調	659
	「富豪人名」	659
	郡制施行方取調書類	664
	「長者地価見立鑑」	670
44	第二次殖産十年計画	674
45	第十回関西府県連合共進会出品物概説	710
46	明治四十三年度県米穀輸出検査成績報告	740
	新修島根県史 史料篇6 近代下 目次	ページ
47	第三次産業計画	1
	「大正七年八月決定島根県産業計画書」	1
48	産業指導奨励機関	75
	「県立農事試験場概覧」	75
	「蚕業試験場沿革史」	86
	「水産試験場紀要」	90
49	第四次産業計画	97
	「昭和三年七月決定島根県産業計画書」	97
50	島根県の産米	159
	「県産米累年統計表」	159

	「県米穀検査実施三十年記念誌」	171
51	「島根県蚕業統計要覧」	236
52	島根県の畜産	261
	「県種畜場業務功程報告書」	261
	「県畜産要覧」	273
53	「島根県之林業」	292
54	石見紙	326
	「自明治三十七年至大正十一年関係文書」	326
55	島根県の水産	336
	「県水産要覧」	336
	「片江海洋漁業会社の生立」	360
56	島根県の鉱業	365
	A出雲の砂鉄製煉・「田部家文書」	365
	B石見の銅製煉・「笹ヶ谷借区鉱業明細表」	423
	「久喜堀鉱業所統計表」	438
	「大森鉱山概況一斑」	443
57	島根県の商工業	454
	「県商工概要」	454
	「県商工統計要覧」	473
58	物価と賃金	495
	松江の物価	495
	松江の賃金	497
59	反動恐慌と米価暴落対策	498
	「島根県農会報」	498
60	昭和初期の大恐慌	524
	A米籾価暴落	524
	B農業恐慌	529
	C品種調査会と農具査定会	581
	D農山漁村経済更生計画	587
	E市町村負債整理事業	605
	F時局匡救事業	609
61	地方別小作争議概要	627
62	駅逓郵便汽船鉄道	635
	A駅逓郵便・「島根県史料駅逓」	635
	「浜田県史料駅逓」	645
	「県達・駅逓局達」	649
	B隠岐汽船開航	653
	C鉄道開通・「山陰線建設概要」	668
	「浜田線鉄道建設概要」	672
	「第十議会以来陰陽連絡鉄道問題ニ関スル経緯」	674
	「第十二議会ニ於ケル経過報告」	681
	「鉄道石東開通記念余録」	684
	「簸上鉄道工事報告」	692
	「簸上鉄道の沿革」	695
	「木次落合線起工経過報告」	697
	「停車場開設年月一覧表」	699
	出雲市駅営業成績の変遷	701
63	道路と河川	702
	A三大大道改修の顛末	702
	B土木費及町村土木補助費支出規則	728
	C道路交通情勢調査	732
	D県内ニ於ケル道路	734
64	皇太子殿下の御来県	736
	明治四十年行啓日誌	736
	山陰行啓供奉人名	740
	大正六年行啓一途	740
65	郷土の聯隊略歴・日本海海戦	742
	歩兵二一聯隊の略年譜	742
	松江部隊の略年譜	746

	日本海海戦と本県沿海地方	750
66	災害	755
	浜田大地震	755
	明治二十六年風水害	760
	昭和十八年災害	763
	昭和十九年災害	766
67	騒擾	772
	「明治二年杵築人別沸騰之節書類」	772
	浜田の米騒動	776
68	戦争末期の一断片	780
	島根新聞記事	780
	新修島根県史 年表篇 目次 (略)	